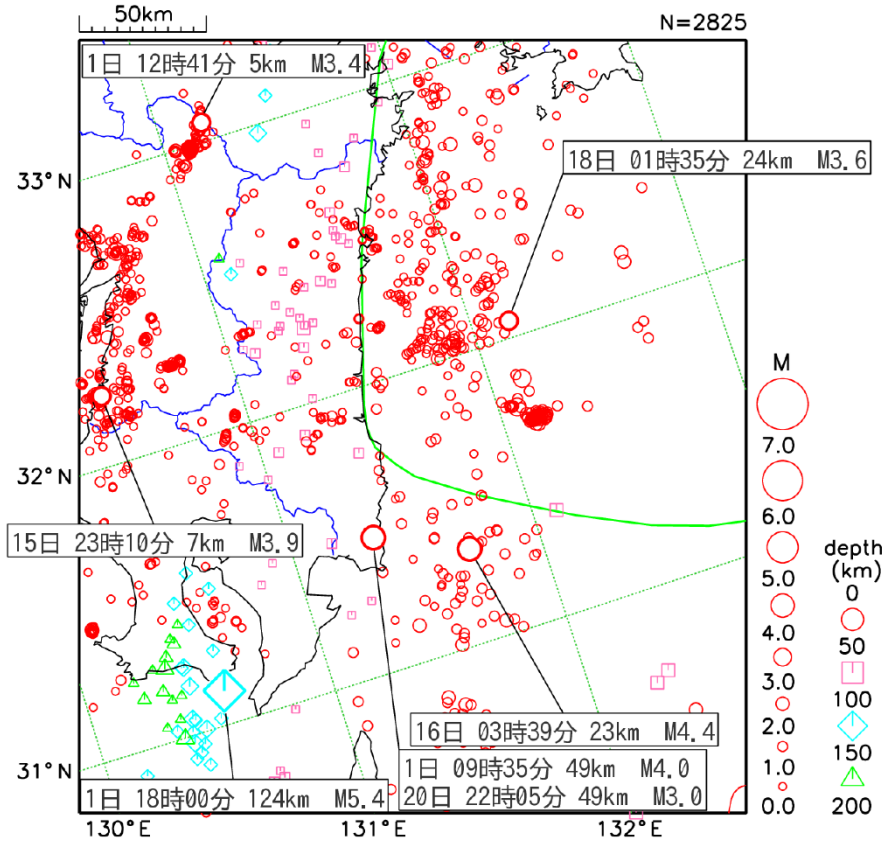


宮崎県の地震活動概況 (2026年3月)

令和8年4月10日
宮崎地方気象台

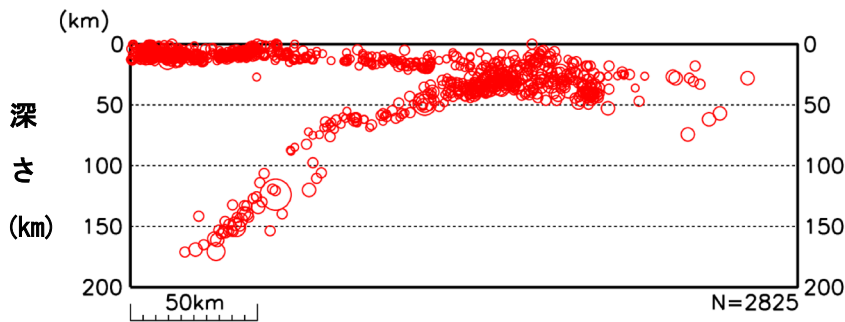
【地震活動の概要】

3月に宮崎県内の震度観測点で震度1以上を観測した地震は9回(2月は3回)でした。



震央分布図 (2026年3月1日~31日、M0.0以上、深さ200km以浅)

地震の規模(マグニチュードM)は記号の大きさで、震源の深さを記号と色で示しています。緑色の線は南海トラフ巨大地震の想定震源域を示しています。宮崎県で震度1以上を観測した地震に吹き出しをつけています。なお、16日に発生した伊予灘の地震、25日に発生した福岡県筑後地方の地震は範囲外です。



断面図(震央分布図の投影、深さ200km以浅)

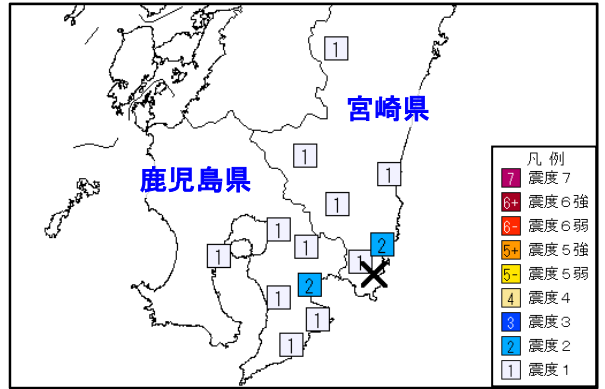
国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを使用しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点(河原、熊野座)、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点(よしが浦温泉、飯田小学校)、2025年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点(平島、小宝島)、EarthScope Consortiumの観測点(台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東)のデータを用いて作成している。

1日、20日 宮崎県南部平野部を震源とする地震

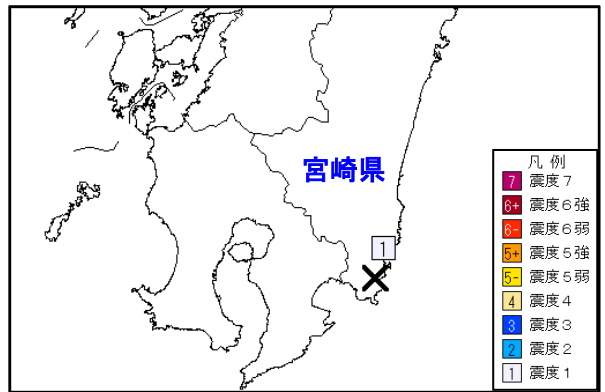
1日 09時35分に発生したM4.0の地震（深さ49km）により、宮崎県日南市、鹿児島県大崎町で震度2を観測したほか、宮崎県、鹿児島県で震度1を、また、20日 22時05分にほぼ同じ場所で発生したM3.0の地震（深さ49km）により、宮崎県日南市で震度1を観測しました（図1）。

今回の地震の震源付近（図3領域b）は、日頃から地震活動がみられる領域で、最近では、2025年6月23日にM3.5の地震（深さ51km、最大震度1）が発生し、県内では、宮崎市、日南市、串間市、都城市、美郷町、三股町で震度1を観測しました。

また、2024年4月8日にM5.1の地震（深さ39km、最大震度5弱）が発生し、宮崎県日南市で震度5弱を観測しました（図2～4）。



1日 09時35分 M4.0



20日 22時05分 M3.0

図1 震度分布図（観測点別、×：震央）

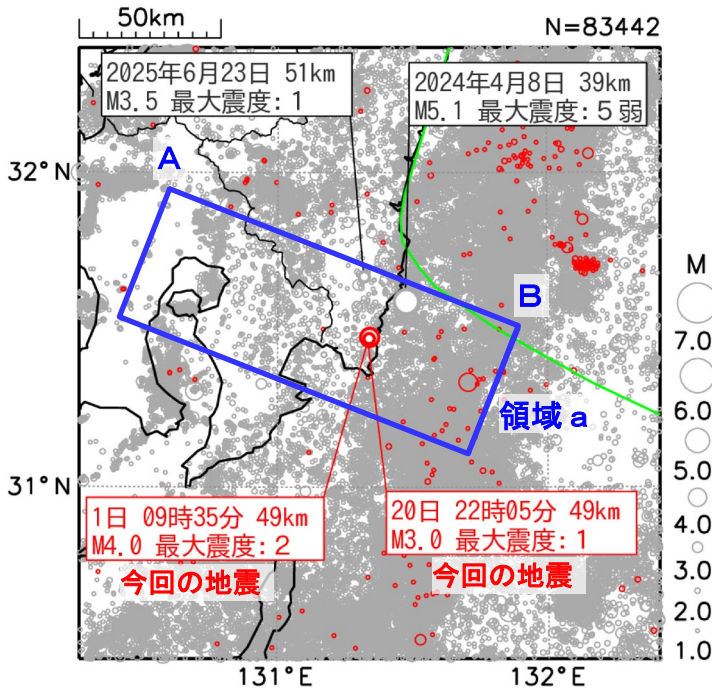


図2 震央分布図

(1997年10月1日～2026年3月31日、深さ0～100km、M≥1.0)

※2026年3月の地震を赤色で表示

緑色の線は南海トラフ巨大地震の想定震源域を示しています。

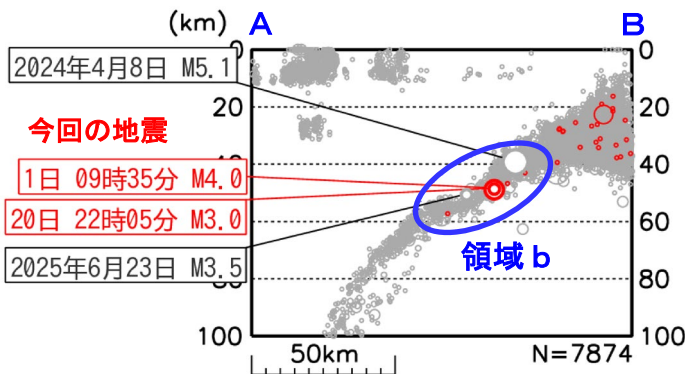


図3 図2領域a内の断面図（A－B投影）

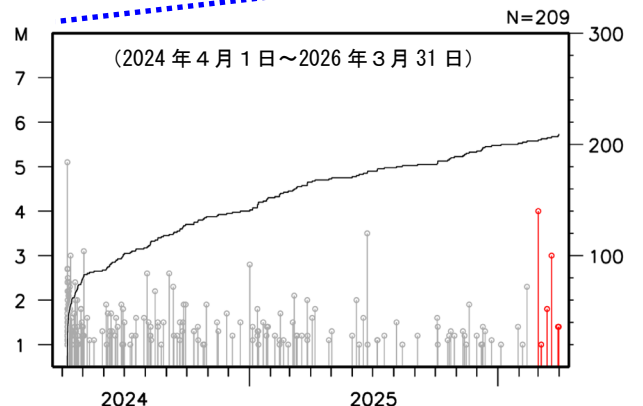
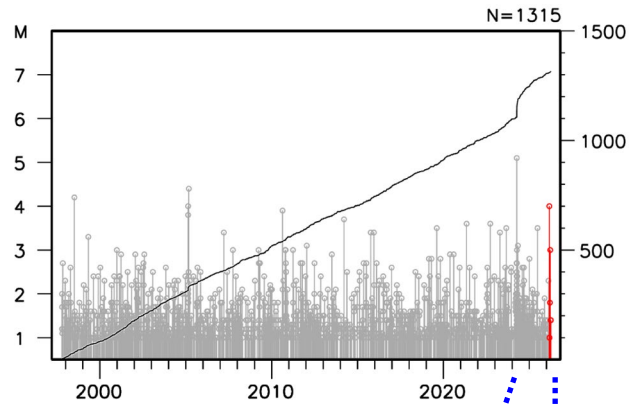


図4 図3領域b内の地震活動経過図および回数積算図

1日 熊本県阿蘇地方を震源とする地震

1日 12時41分に発生したM3.4の地震（深さ5km）により、熊本県産山村、大分県竹田市で震度2を観測したほか、宮崎県、熊本県、大分県で震度1を観測しました。県内では、延岡市、高千穂町で震度1を観測しました（図5）。

今回の地震の震央付近（図6領域a）は、日頃から地震活動がみられる領域で、2025年11月25日にM5.8の地震（深さ9km、最大震度5強）が発生し、県内では、延岡市、高千穂町、美郷町で震度3を観測しました。

また、2016年4月16日にM5.8の地震（深さ11km、最大震度6強）が発生し、県内では、延岡市、高千穂町で震度4を観測しました（図6～7）。

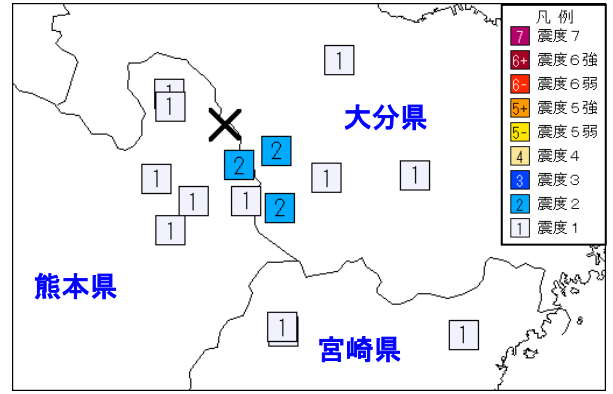


図5 震度分布図 (観測点別、×:震央)

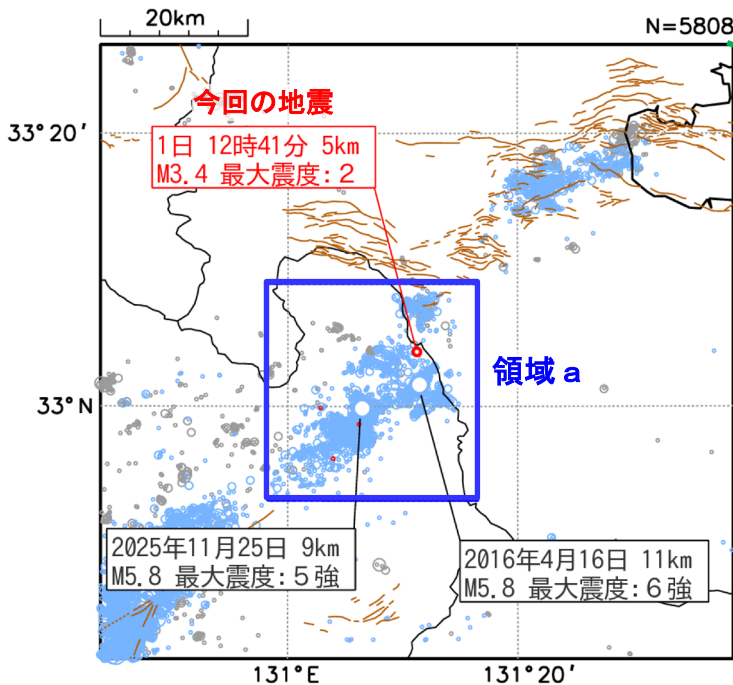


図6 震央分布図

(2000年10月1日~2026年3月31日、

深さ0~30km、M≥2.0)

※2016年4月14日以降の地震を薄青色で、
2026年3月の地震を赤色で表示

※図中の茶色線は地震調査研究推進本部の
長期評価による活断層を示しています。

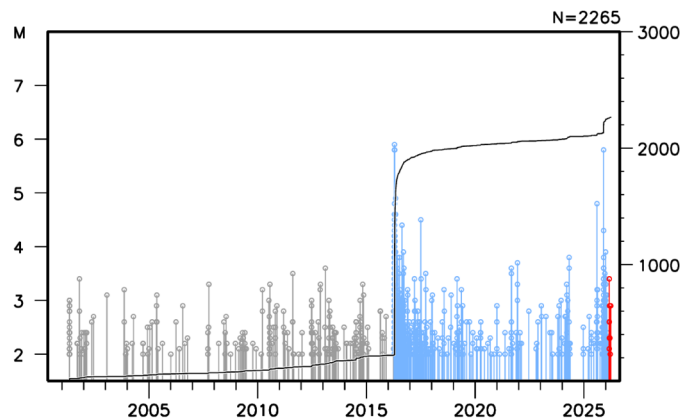
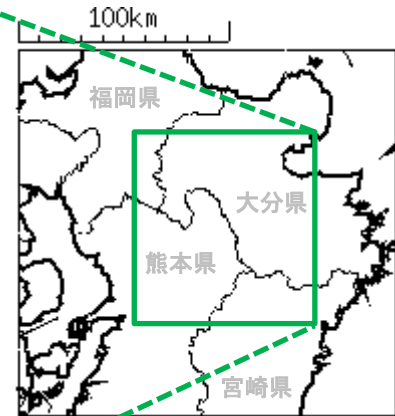


図7 図6領域a内の地震活動経過図および回数積算図

1日 薩摩半島西方沖を震源とする地震

1日 18時00分に発生したM5.4の地震（深さ124km）により、宮崎県の都城市、三股町、鹿児島県の鹿児島市、鹿屋市、大崎町、錦江町、肝付町、南種子町で震度3を観測したほか、九州地方、中国地方、四国地方、近畿地方で震度2～1を観測しました（図8）。

今回の地震の震源付近（図10領域b）は、日頃から地震活動がみられる領域で、最近では、2025年8月12日にM4.1の地震（深さ159km、最大震度1）が発生し、県内では串間市、小林市で震度1を観測しました。

また、2009年9月3日には、M6.0の地震（深さ167km、最大震度4）が発生し、宮崎県都城市で震度4を観測しました（図9～11）。

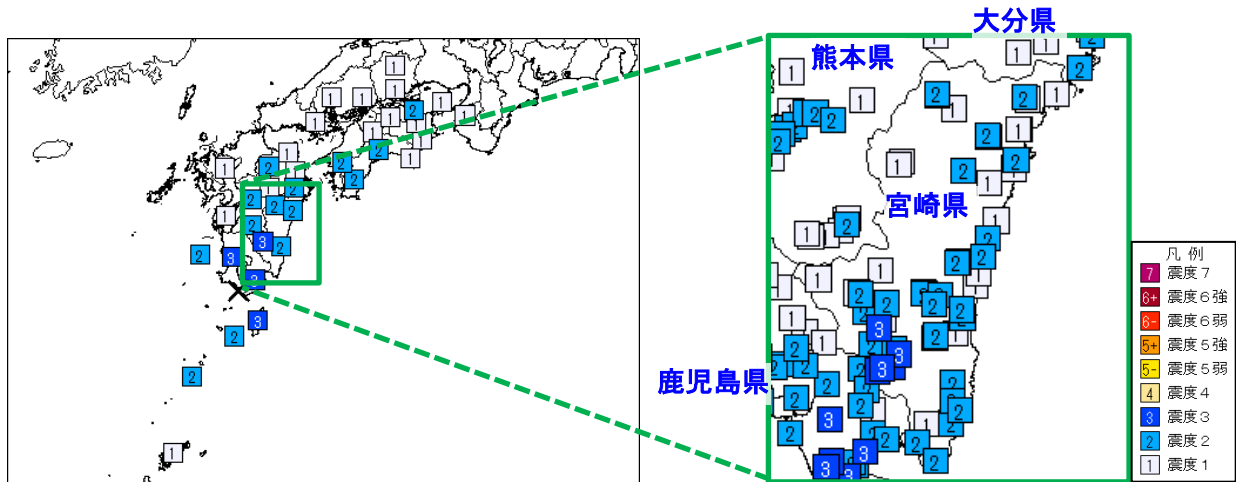


図8 震度分布図（左図：地域別、右図：観測点別、×：震央）

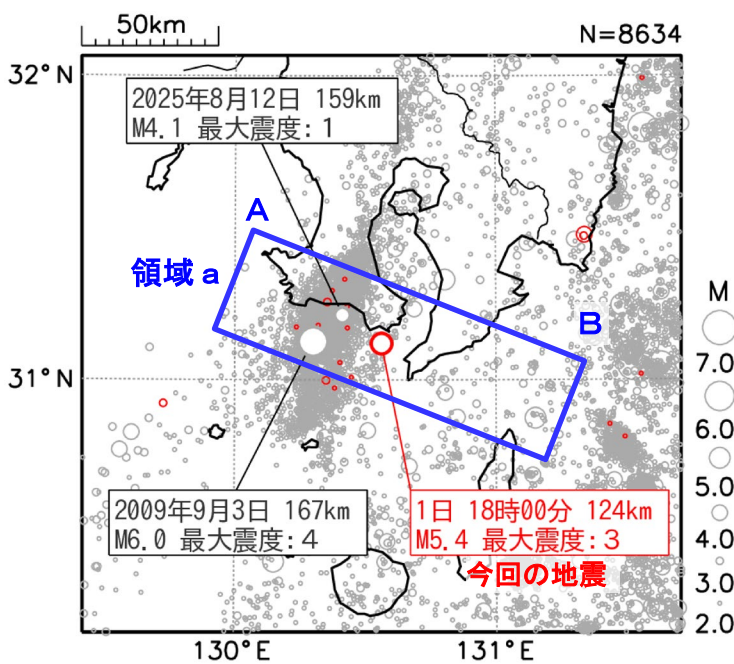


図9 震央分布図
(1997年10月1日～2026年3月31日、深さ30～300km、M≥2.0)
※2026年3月の地震を赤色で表示

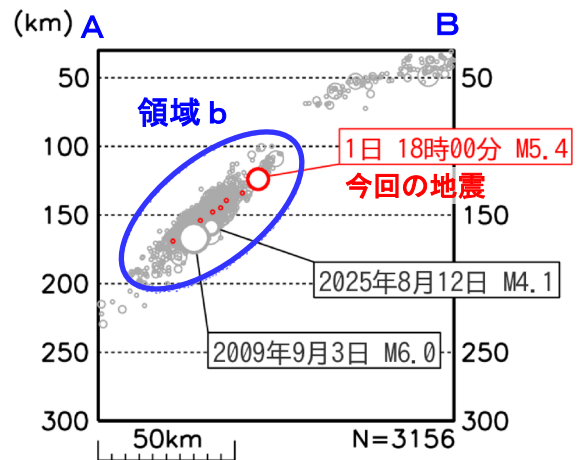


図10 図9領域a内の断面図（A－B投影）

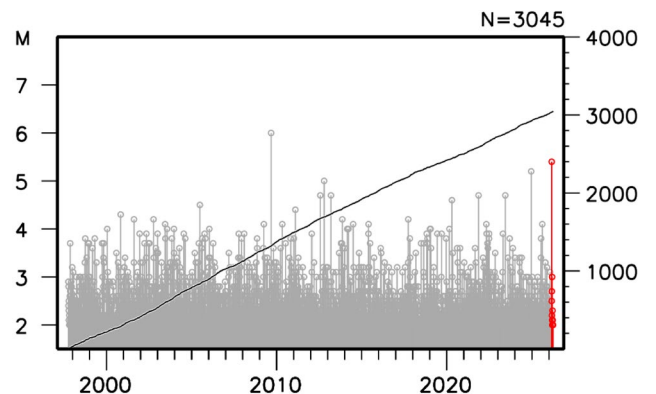


図11 図10領域b内の地震活動経過図および回数積算図

15日 熊本県天草・芦北地方を震源とする地震

15日 23時10分に発生したM3.9の地震(深さ7km)により、熊本県水俣市で震度4を観測したほか、宮崎県、熊本県、鹿児島県、長崎県で震度3～1を観測しました。県内では、西都市、えびの市、都農町で震度1を観測しました(図12)。

今回の地震の震央付近(図13領域a)は、日頃から地震活動がみられる領域ですが、県内で震度1以上を観測したのは、2019年6月27日に発生したM3.5の地震(深さ7km、最大震度3)により、えびの市で震度1を観測して以来です。

また、図13領域bでは、「平成28年(2016年)熊本地震」が発生しています(図13～15)。

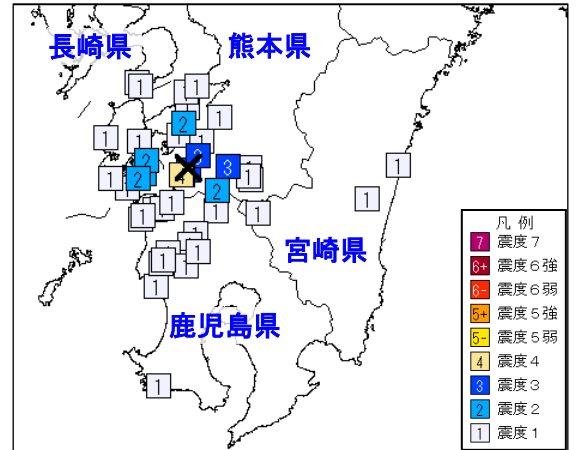


図12 震度分布図(観測点別、×:震央)

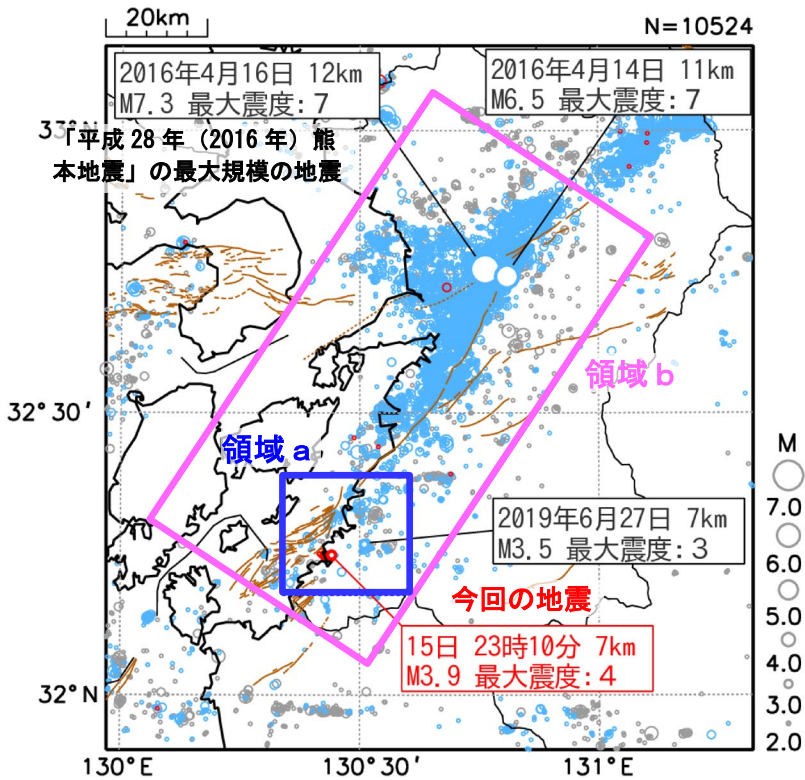


図13 震央分布図

(2000年10月1日～2026年3月31日、深さ0～20km、M≥2.0)

※2016年4月14日以降の地震を薄青色で、2026年3月の地震を赤色で表示

※図中の茶色線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示しています。

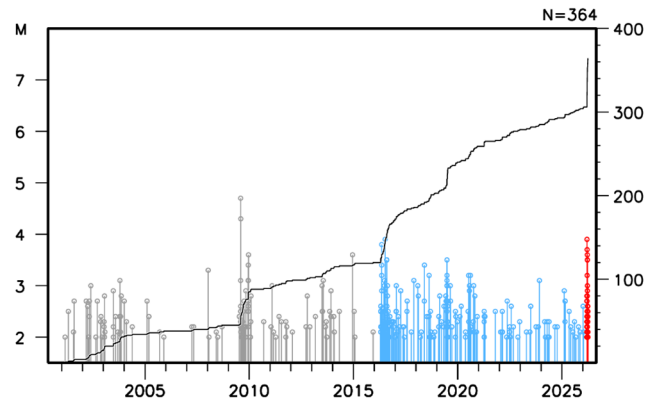


図14 図13領域a内の地震活動経過図および回数積算図

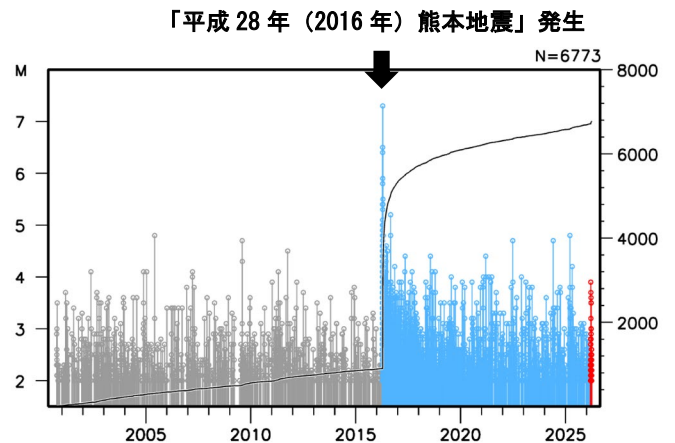


図15 図13領域b内の地震活動経過図および回数積算図

16日 大隅半島東方沖を震源とする地震

16日 03時 39分に発生した M4.4 の地震（深さ 23km）により、宮崎県の宮崎市、日南市、串間市、鹿児島県の霧島市、鹿屋市、志布志市、曾於市、大崎町、錦江町、南大隅町で震度 2 を観測したほか、宮崎県、鹿児島県で震度 1 を観測しました（図 16）。

今回の地震の震源付近（図 18 領域 b）は、日頃から地震活動がみられる領域で、最近では 2025 年 12 月 6 日に M3.4 の地震（深さ 38km、最大震度 1）が発生し、県内では、日南市で震度 1 を観測しました。

また、2022 年 10 月 2 日に M5.9 の地震（深さ 29km、最大震度 5 弱）が発生し、宮崎県日南市で震度 5 弱を観測しました（図 17～19）。

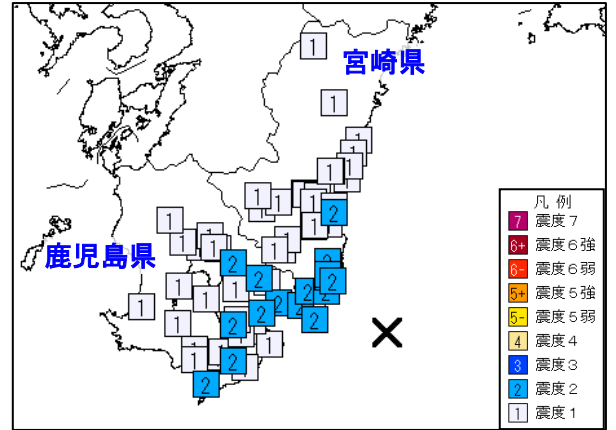


図 16 震度分布図（観測点別、× : 震央）

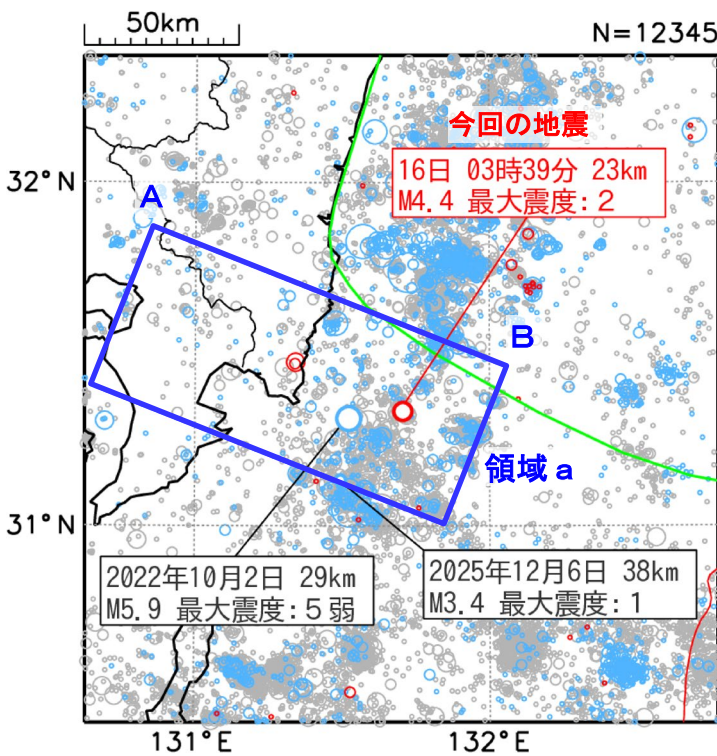


図 17 震央分布図

(1997 年 10 月 1 日～2026 年 3 月 31 日、
深さ 0 ～ 100 km、M ≥ 2.0)

※2022 年 10 月 2 日以降の地震を薄青色で、
2026 年 3 月の地震を赤色で表示

緑色の線は南海トラフ巨大地震の想定震源域を示しています。

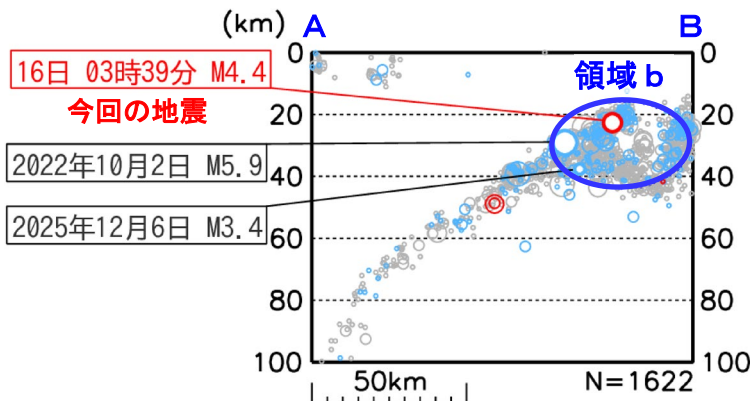


図 18 図 17 領域 a 内の断面図（A - B 投影）

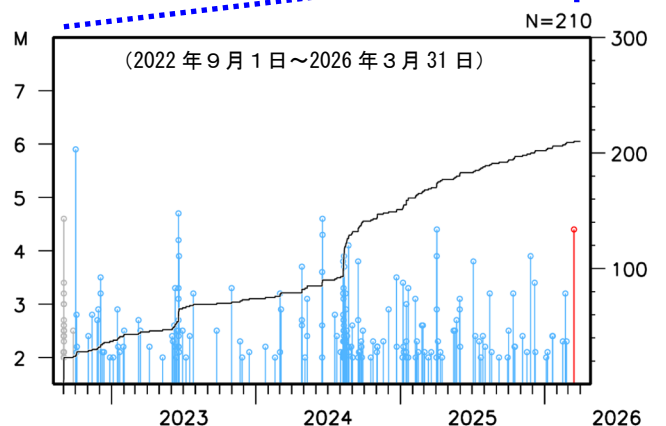
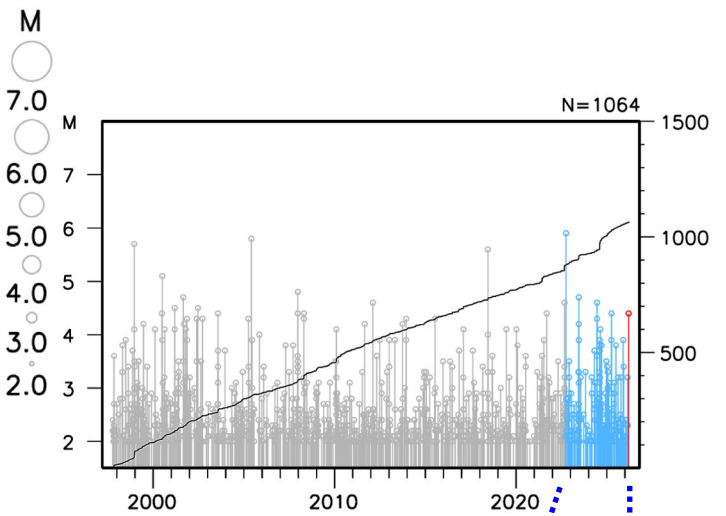


図 19 図 18 領域 b 内の地震活動経過図
および回数積算図

16日 伊予灘を震源とする地震

16日 05時25分に発生したM4.0の地震（深さ52km）により、愛媛県伊方町で震度3を観測したほか、九州地方、中国地方、四国地方で震度2～1を観測しました。県内では、高千穂町で震度1を観測しました（図20）。

今回の地震の震源付近（図22領域b）では、2024年2月26日にM5.1の地震（深さ47km、最大震度4）が発生し、県内では、延岡市、西都市、宮崎市、高千穂町で震度2を観測しました（図21～23）。

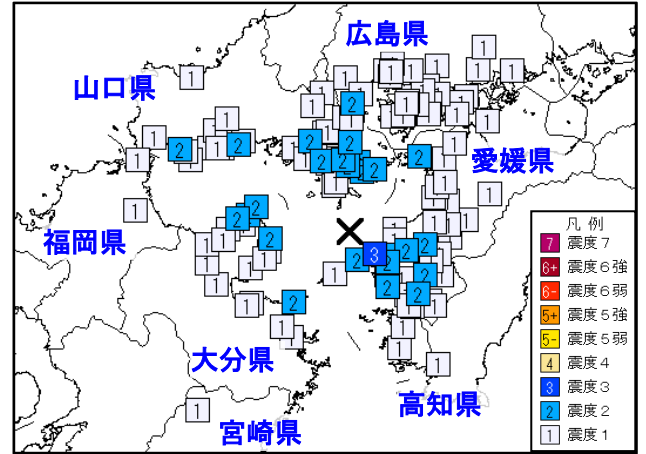


図20 震度分布図 (観測点別、×:震央)

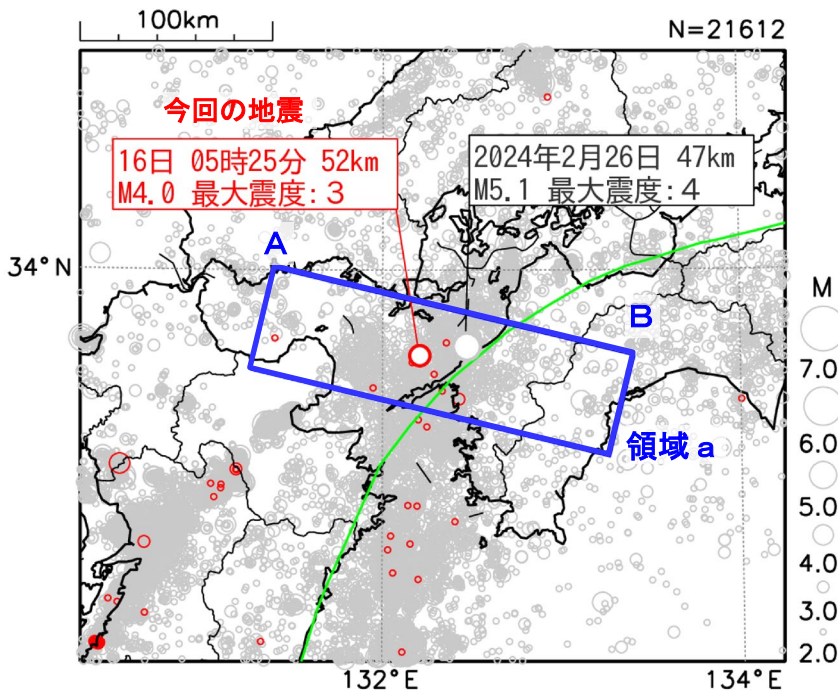


図21 震央分布図

(1997年10月1日～2026年3月31日、深さ0～100km、M≥2.0)

※2026年3月の地震を赤色で表示

緑色の線は南海トラフ巨大地震の想定震源域を示しています。

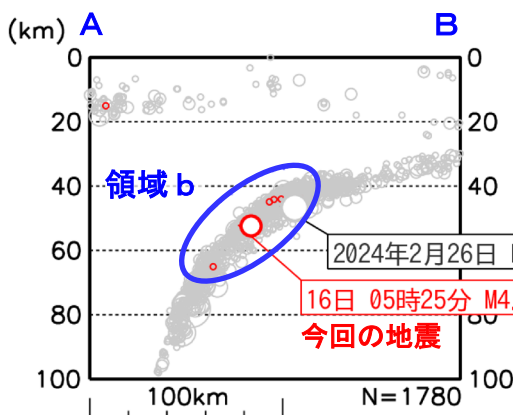


図22 図21領域a内の断面図 (A-B投影)

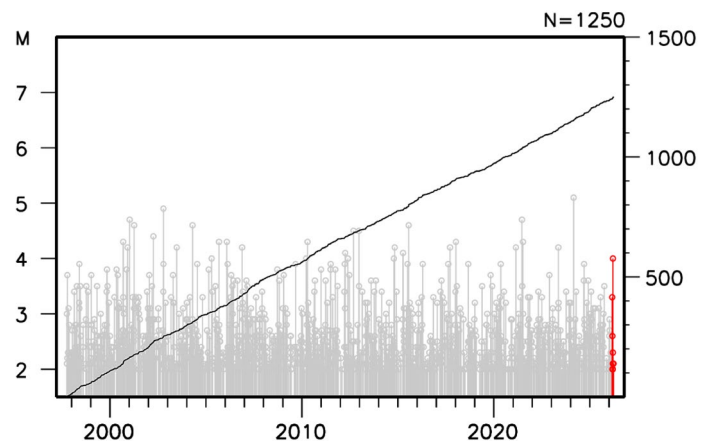


図23 図22領域b内の地震活動経過図および回数積算図

18日 日向灘を震源とする地震

18日 01時35分に発生した M3.6 の地震（深さ 24km）により、宮崎県美郷町で震度 1 を観測しました（図 24）。

今回の地震の震源付近（図 26 領域 b）は、日頃から地震活動が見られる領域で、最近では、2025年12月4日に M3.6 の地震（深さ 24km、最大震度 1）が発生し、宮崎県の日向市、西都市、高鍋町、川南町、都農町、美郷町で震度 1 を観測しました。

また、2014年8月29日に M6.0 の地震（深さ 18km、最大震度 4）が発生し、宮崎県では宮崎市、美郷町、高鍋町、川南町で震度 4 を観測しました（図 25～27）。

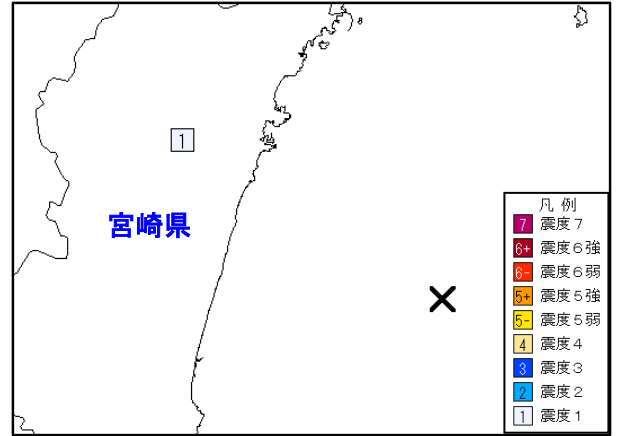


図 24 震度分布図（観測点別、×：震央）

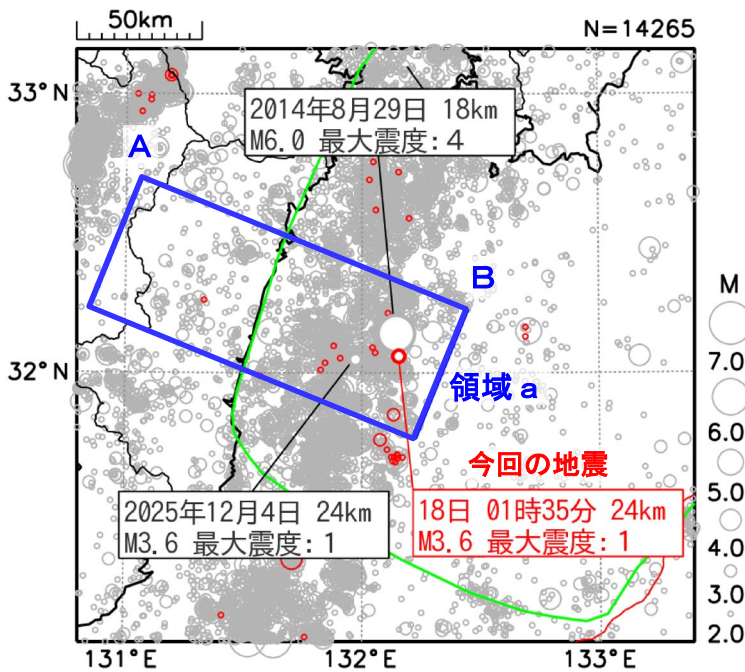


図 25 震央分布図

(1997年10月1日～2026年3月31日、深さ 0～100km、M≥2.0)

※2026年3月の地震を赤色で表示

緑色の線は南海トラフ巨大地震の想定震源域を示しています。

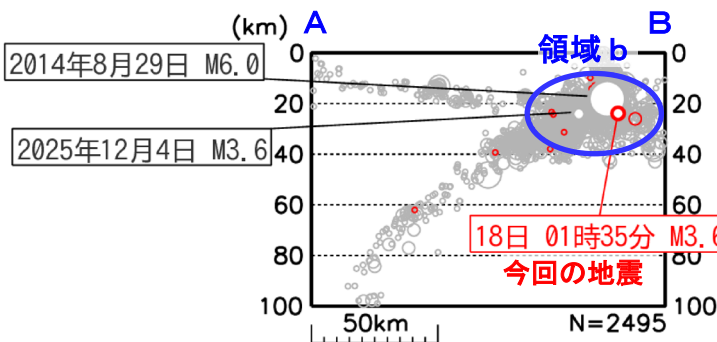


図 26 図 25 領域 a 内の断面図（A－B 投影）

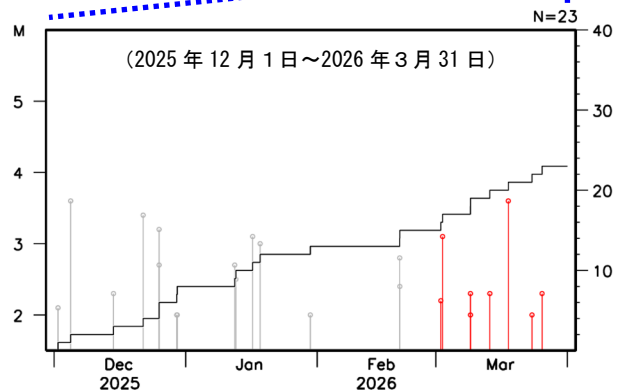
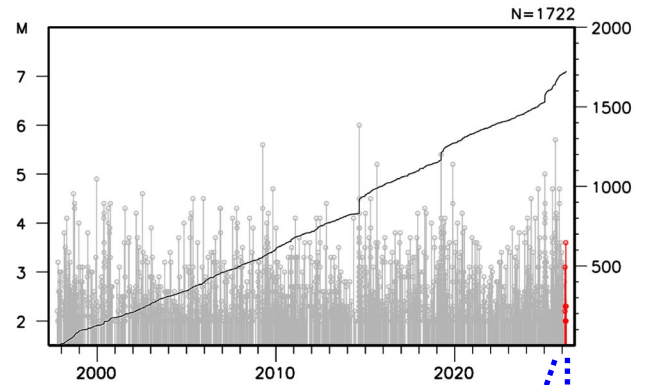


図 27 図 26 領域 b 内の地震活動経過図および回数積算図

25日 福岡県筑後地方を震源とする地震

25日 20時33分に発生した M4.0 の地震（深さ 13km）により、福岡県の大牟田市、久留米市、柳川市、八女市、みやま市、広川町、佐賀県佐賀市、熊本県和水町で震度3を観測したほか、宮崎県、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県で震度2～1を観測し、県内では、延岡市、美郷町、椎葉村で震度1を観測しました（図28）。

今回の地震の震央付近（図29 領域a）では、2019年1月3日に M5.1 の地震（深さ 10 km、最大震度 6弱）が発生し、県内では、高千穂町、美郷町、椎葉村で震度3を観測しました（図29～30）。

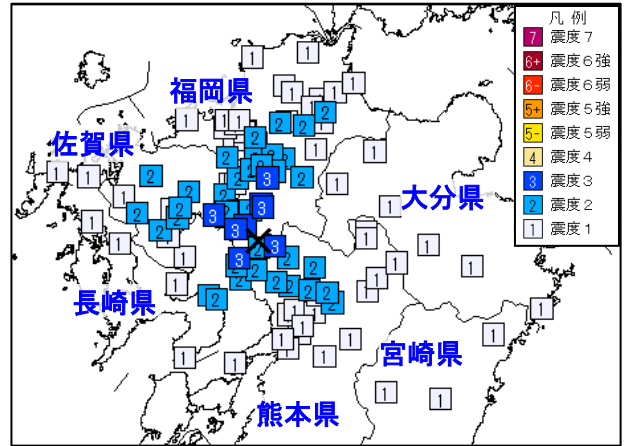


図28 震度分布図 (観測点別、×:震央)

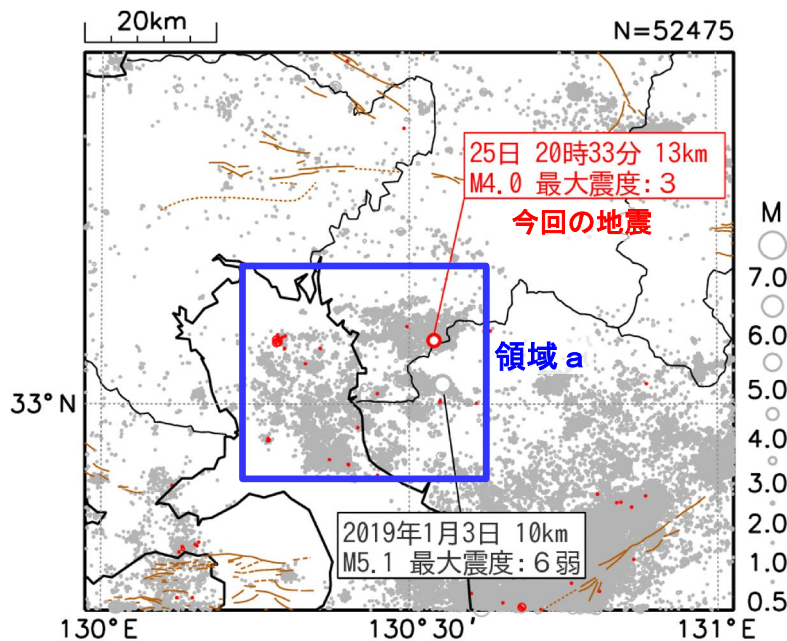


図29 震央分布図

(2000年10月1日～2026年3月31日、
深さ0～20km、M≥0.5)

※2026年3月の地震を赤色で表示

※図中の茶色線は地震調査研究推進本部の
長期評価による活断層を示しています。

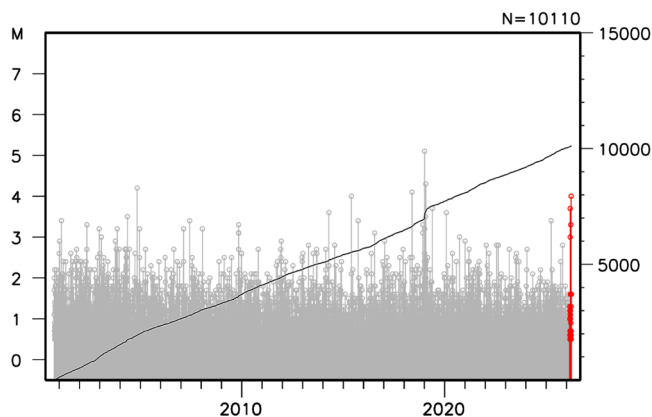


図30 図29 領域a内の地震活動経過図
および回数積算図

宮崎県内で震度1以上を観測した地震の表 (3月1日~31日)

震源時 (年月日時分) 各地の震度	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード*
2026年03月01日09時35分 震度 2 : 日南市南郷町南町*, 日南市中央通* 震度 1 : 椎葉村総合運動公園*, 宮崎市松橋*, 宮崎市田野町体育館*, 日南市油津 日南市北郷町大藤, 日南市吾田東*, 日南市北郷町郷之原*, 串間市奈留, 串間市役所* 都城市山之口町花木*, 小林市真方	宮崎県南部平野部	31° 28.6' N	131° 20.4' E	49km	M4.0
2026年03月01日12時41分 震度 1 : 延岡市北川町川内名白石*, 高千穂町三田井, 高千穂町寺迫*	熊本県阿蘇地方	33° 04.0' N	131° 11.2' E	5km	M3.4
2026年03月01日18時00分 震度 3 : 都城市菖蒲原, 都城市姫城町*, 都城市高崎町大牟田*, 都城市山之口町花木* 三股町五本松* 震度 2 : 延岡市北川町川内名白石*, 延岡市北方町総合支所*, 西都市上の宮*, 高鍋町上江* 川南町川南*, 門川町平城東*, 高千穂町三田井, 宮崎美郷町田代*, 宮崎市霧島 宮崎市松橋*, 宮崎市田野町体育館*, 宮崎市高岡町内山*, 日南市油津 日南市吾田東*, 日南市南郷町南町*, 日南市中央通*, 日南市北郷町郷之原* 串間市都井*, 串間市役所*, 国富町本庄*, 綾町南俣健康センター* 都城市高城町穂満坊*, 都城市山田町山田*, 小林市真方, 小林市野尻町東麓* 高原町西麓* 震度 1 : 延岡市天神小路, 延岡市北方総合運動公園, 延岡市北川町総合支所* 延岡市北浦町古江*, 延岡市東本小路*, 日向市大王谷運動公園, 日向市東郷町山陰* 西都市聖陵町*, 新富町上富田, 宮崎都農町役場*, 椎葉村総合運動公園* 椎葉村下福良*, 高千穂町寺迫*, 日之影町七折*, 宮崎市田野支所* 宮崎市清武町西新町*, 宮崎市佐土原町下田島*, 日南市北郷町大藤, 串間市奈留 綾町役場*, 都城市高崎町江平, 小林市役所*, 小林市中原*, えびの市加久藤*	薩摩半島西方沖	31° 07.1' N	130° 33.7' E	124km	M5.4
2026年03月15日23時10分 震度 1 : 西都市上の宮*, 宮崎都農町役場*, えびの市加久藤*	熊本県天草・芦北地方	32° 14.8' N	130° 26.4' E	7km	M3.9
2026年03月16日03時39分 震度 2 : 宮崎市松橋*, 日南市油津, 日南市吾田東*, 日南市中央通*, 日南市北郷町郷之原* 日南市南郷町南町*, 串間市奈留, 串間市都井*, 串間市役所* 震度 1 : 西都市上の宮*, 西都市聖陵町*, 高鍋町上江*, 新富町上富田, 川南町川南* 宮崎都農町役場*, 高千穂町三田井, 宮崎美郷町田代*, 宮崎市霧島 宮崎市田野町体育館*, 宮崎市高岡町内山*, 宮崎市田野支所* 宮崎市清武町西新町*, 日南市北郷町大藤, 国富町本庄*, 綾町南俣健康センター* 綾町役場*, 都城市菖蒲原, 都城市山之口町花木*, 小林市真方, 小林市野尻町東麓* 三股町五本松*, 高原町西麓*	大隅半島東方沖	31° 20.0' N	131° 42.3' E	23km	M4.4
2026年03月16日05時25分 震度 1 : 高千穂町三田井	伊予灘	33° 36.0' N	132° 12.5' E	52km	M4.0
2026年03月18日01時35分 震度 1 : 宮崎美郷町田代*	日向灘	32° 03.5' N	132° 09.3' E	24km	M3.6
2026年03月20日22時05分 震度 1 : 日南市中央通*	宮崎県南部平野部	31° 28.3' N	131° 20.3' E	49km	M3.0
2026年03月25日20時33分 震度 1 : 延岡市北川町川内名白石*, 延岡市北方町総合支所*, 椎葉村下福良* 宮崎美郷町田代*	福岡県筑後地方	33° 05.2' N	130° 32.4' E	13km	M4.0

使用した震源要素等は暫定値であり、後日修正することがあります。

*は地方公共団体または、国立研究開発法人防災科学技術研究所の観測点です。

「平成 28 年（2016 年）熊本地震」から 10 年 ～「熊本地震から 10 年」特設サイトの開設～

今年、甚大な被害をもたらした「平成 28 年（2016 年）熊本地震」（以下、熊本地震）から 10 年の節目となります。今回は熊本地震の概要について振り返るとともに、熊本地方気象台と大分地方気象台が開設した特設サイトを紹介します。

● 熊本地震とその特徴

2016 年 4 月 14 日 21 時 26 分に熊本県熊本地方を震源とする M6.5 の地震が発生し、熊本県益城町で震度 7（県内では、椎葉村で震度 5 弱）を観測しました。その約 28 時間後の 4 月 16 日 01 時 25 分に同じ熊本県熊本地方を震源とする M7.3 の地震（以下、本震）が発生し、熊本県の益城町と西原村で震度 7（県内では、高千穂町、美郷町、椎葉村で震度 5 強）を観測しました。このように、一連の地震活動のうちに 2 度も震度 7 が観測されたのは、気象庁の震度観測史上初めてのことでした。これらの地震は、政府の地震調査研究推進本部地震調査委員会（以下、地震本部）が長期評価の対象としていた活断層（布田川断層帯・日奈久断層帯）が活動したものと評価されています。本震発生後には、時間の経過とともに地震の活動域が熊本県から大分県にかけての広い範囲に拡大しました。気象庁はこの一連の地震活動の名称を「平成 28 年（2016 年）熊本地震」と決めました。

この熊本地震による人的被害は、熊本県で死者 275 人（災害関連死含む）、大分県で死者 3 人、熊本県、大分県、福岡県、佐賀県、宮崎県で重傷者 1,203 人にのぼりました（熊本県の死者数は 2025 年 4 月 11 日現在、熊本県による、その他は 2019 年 4 月 12 日現在、消防庁による）。また、震源域付近を中心に建物被害や土砂崩れなどが発生したほか、電気、ガス、水道、交通アクセスなどのライフラインにも甚大な被害を生じました。

● 熊本地震後の主な取り組み

（1）大地震の見通しの表現について

熊本地震で発表した地震活動の見通しについては、以下の課題が指摘されました。

- ・最初の大きな地震の後に、より大きな地震が発生したことにより、政府の地震本部が 1998 年（平成 10 年）にとりまとめた報告書「余震の確率評価手法について」に基づいて発表してきた、大きな地震が発生した後の余震の確率評価手法の判定条件が妥当でなくなったこと。
- ・「余震」という言葉が、より大きな地震、より強い揺れは発生しないというイメージを情報の受け手に与えた可能性があること。
- ・余震発生確率の値が通常的生活の感覚からするとかなり低い確率であると受けとられ、安心情報であると受け取られた可能性があること。

これらの課題に対処するため、地震本部は余震の確率評価手法の改良のほか、大地震後における地震活動の見通しや防災上の呼びかけの方針を検討した結果を、「大地震後の地震活動の見通しに関する情報のあり方」（2016 年 8 月）としてとりまとめ、公表しました（以下 URL）。

https://www.jishin.go.jp/reports/research_report/yosoku_info/

これを受けて気象庁は、大きな地震が発生した場合に以下のような呼びかけをしています。

- ・地震発生直後は、最初の地震と同程度の地震への注意を呼びかけることを基本とし、地域特性に応じた注意喚起を行う。
- ・周辺に活断層等がある場合は、地震本部の長期評価結果等に基づいた呼びかけを行う。
- ・地震発生から1週間程度以降は、余震確率に基づく数値的な見通しを、非常時の確率等との比（例：地震発生当初の1／〇程度、平常時の〇〇倍）で表現し、付加する。

現在、気象庁が大きな地震（最大震度5弱以上）が発生した場合に発表している、地震活動の見通しや防災上のポイントなどについては、下記リンク先をご覧ください。

https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/aftershocks/index_whats_aftershock.html

（2）活断層の調査

地震本部では、平成28～30年度に布田川断層帯・日奈久断層帯の総合的な活断層調査を実施し、活断層の活動区間や過去に発生した地震の時期などで新たな知見が得られました。調査の詳細については下記リンク先をご覧ください。また、熊本地方気象台は布田川断層帯でトレンチ調査を実施した東北大学と熊本大学の協力を得て、地層の剥ぎ取り標本を作製しました（後述する熊本地方気象台の特設サイト内でご紹介しています）。

平成28年熊本地震を踏まえた総合的な活断層調査のページ（地震本部）

https://www.jishin.go.jp/database/project_report/kumamoto_sogochousa/kumamoto_sogochousa-h28-h30/

● 「熊本地震から10年」特設サイトについて

熊本地震から10年という節目の年に当たることから、熊本地方気象台と大分地方気象台は、熊本地震に関する特設サイトを開設しました。特設サイトでは、熊本地震の概要や被害状況、当時の気象台の対応や地震に関する基礎知識などについてわかりやすく解説しています。モバイル端末からもアクセスできますので、どこからでも気軽に見ることができます。日本に住んでいる限り、「いつでも、どこでも、だれでも」大きな地震に遭遇する可能性があります。この機会に地震への備えや地震発生時の行動について考えてみませんか。

「熊本地震から10年」特設サイトのトップページ

熊本地方気象台



大分地方気象台



特設サイトのURL

熊本地方気象台：<https://www.data.jma.go.jp/kumamoto/The-2016-Kumamoto-Earthquake/index.html>

大分地方気象台：<https://www.data.jma.go.jp/oita/shosai/The-2016-Kumamoto-Earthquake-oita/index.html>